

八十里越ルート調査及び古道トレッキングコース整備事業

特定非営利活動法人 しただの里

〇はじめに

八十里越は司馬遼太郎の小説「峠」の舞台となったことや、河井継之助の「八十里こしぬけ武士の越す峠」の狂句などで知られる歴史の道である。

八十里越には従来三本のルート「①明治新道」「②明治中道」「③天保古道」があるが、現在往来に使用されているのは「①明治新道」である。しかし、平成 16 年の 7.13 水害や平成 23 年の 7.29 水害などで多くの破損箇所が生じ、現在は危険の多いルートとなっている。

一部の山岳縦走ファンや歴史マニアには全国的に人気のあるスポットであるが、昨年リニューアルオープンした三条側の八十里越入口に位置する『吉ヶ平自然体感の郷』の集客効果で、多くの一般観光客が軽装で八十里越に足を踏み入れていることで、地元では山岳事故を心配する声が上がっており、ルートの再整備が課題となっている。

平成 28 年度は上記記述の喫緊の地域課題を解決するため、吉ヶ平自然体感の郷管理組合や日本トレッキング協会と連携し、費用対効果の高い事業に取り組みたいと考えている。

当該事業では、従来八十里越の整備にあたってきた吉ヶ平保存会など下田地区のコミュニティ団体や八十里越を保有管理している国、三条市や福島県の只見町など各行政機関とも丁寧な連絡調整を図り、先ず「①明治新道」の破損箇所を調査・整備しつつ、次に「①明治新道」と交わるように巡っている「②明治中道」と、天保に開削された「③天保古道」を調査・整備することで、新道・中道・古道を一体的に再整備し、新道・中道・古道を繋げた新たなトレッキングコースを設定して、方向指示標識・歴史解説標識・警告標識等を設置し、一般観光客も安全に楽しめる新たなトレッキングコースを整備し、多様な観光客を誘致促進することで地域の活性化を図る。

また、専門家や関係者を交え八十里越をテーマにしたフォーラムを開催する事で、当該事業の内容をプレスリリースし、事業の意義をアピールして、地域の理解と協力の基盤を強化した。

スケジュールとしては、

平成 28 年度 春～秋 明治新道の破損箇所調査及び整備

平成 28 年度 冬 専門家や関係者を交えた八十里越をテーマにしたフォーラム開催を実施・開催した。

○八十里越古道新道調査整備報告

4/24_25 7名 入叶津浅草岳登山口
5/ 5 3名 椿尾根までの除草
5/23 4名 椿尾根までの除草



5/29 トレッキングツアー



只見から下田まで残雪の天保古道を2日間かけて走破しました。

5/29 13名 番屋乗越までのトレッキングツアー
6/ 6 4名 国有林森林管理官と尾根まで明治新道の実況検分
6/28 7名 上記と同じく番屋山と天保古道の検分
7/10 5名 番屋乗越までの除草
7/18 2名 イツキ山までの明治新道の調査
8/ 1 3名 番屋乗越までの明治新道整備（雪害倒木の除去）
9/12 5名 番屋乗越までの明治新道整備（雪害倒木の除去）
9/19 5名 番屋乗越までの明治新道整備（雪害倒木の除去）
9/25 3名 番屋乗越までの天保古道整備
10/10 5名 番屋乗越までの除草と整備
10/22 35名 番屋乗越までのトレッキングツアー



10/22 トレッキングツアー

以上、全14回

長谷部忠夫氏 只見(鞍掛～入叶津)調査図



○八十里越フォーラム

日 程：11月20日(日)

会 場：燕三条地場産

参加者：217名



○まとめ

大自然や歴史ロマンに触れられる魅力あるトレッキングコースを再整備する当該事業の実施により、幅広い世代がより安全に八十里越を訪れることができるようになった。

それらの情報を各種マスメディアへのプレスリリースや市のホームページ、コミュニティ団体の facebook や会報などで積極的に情報発信し、全国の山岳縦走ファンや歴史マニアの他、近年増加しているトレッキングファンの山ガールやシニア層など、県内外から多く

の観光客を誘致促進することができた。

八十里越の活用に連携のある日本トレイルランニング協会や日本トレッキング協会、日本シェアリングネイチャー協会など多様な組織との協働により、各種大会や競技会、自然体験イベントなどを誘致し、八十里越を切り口にした下田地区のグリーンツーリズムの活性化を図ることができた。

○今後

事業の継続の方策については、八十里越は日本でも有数の豪雪地帯のため、雪や雨によるルートへの破損が常に生じることから、トレッキングコースの修復には毎年の継続した地域団体と各行政機関との連携・協力作業が不可欠である。このことから、三条市側からだけでなく、八十里越ルートの対極に位置する福島県の只見町側の有志団体とも連携・協力し、八十里越ルートの継続した保全に取り組む体制を強化していきたい

昨年オープンした『吉ヶ平自然体感の郷』の来場者数年間約 3,000 人を、当該事業の実施により、3年後には10,000人台に持っていきたい。

また当団体では平成27年度、八十里越や吉ヶ平自然体感の郷を案内できる人材養成事業として『ただ自然体験観光ガイド養成講座』を実施し、約20名のシニア層観光ガイドを養成したばかりである。そこで当該事業の実施により、そのシニア観光ガイドの活躍の場を創出し、地域住民が安心して八十里越をガイドできる環境整備にも寄与したい。

予定としては、

平成29年度 ②明治中道及び③天保古道の調査及び整備

専門家や関係者を交え八十里越をテーマにしたフォーラムの開催

平成30年度 八十里越の新道・中道・古道ルートの解説や新しいトレッキングコースを紹介したリーフレットの制作・配布やプレスリリース

専門家や関係者を交え八十里越をテーマにしたフォーラムの開催

トレイルランニングの全国大会や歴史の道ツアーなど、各種イベントの開催